

旧生田川一帯は古来からリゾート地だった

中央区を流れる全長 1790mの生田川（二級河川）は、中央区民はもとより、神戸市民のいこいの川である。また、新幹線に乗る乗客が唯一両側をトンネルで挟まれた新神戸駅から望む神戸の景色もこの生田川の眺めに他ならない。また、川の上流には日本三大神滝の一つ、布引の滝があり、新神戸駅の裏からの道を通って滝に上るコースは市民のハイキングコースとしてにぎわいを見せている。

現在の生田川は、明治の初期に付け替えがなされ新神戸駅からまっすぐ南に流れているが、付け替え前（旧生田川）は布引から税関線を通り、加納町3丁目、市役所の前のフラワーロードを通り税関前のあたりで海に流れていたが、下流にある外国人居留地が水害の被害にあったため、1875（明治8）年に現在の新生田川へと付け替えた。

さて、旧生田川から現在の生田神社のあたりにかけては、古来の景勝地・生田の森のあった所で、現在でも生田神社の本殿奥にその名残の森がある。また、川の上流の布引の滝も古代から有数の景勝地であり、平安時代には生田の森や布引の滝を見に、多くの貴族や著名人がこの地を訪れている。さらに、生田川周辺、なかでも生田の森一帯は、源平合戦の一ノ谷の戦いの戦場となったのはもとより、南北朝動乱期の湊川の戦いの戦場でもあり、また、花熊合戦の戦場ともなったように、日本の歴史を変え、時代の転換点となった三つの戦いの舞台となったのである。これも、生田川の背後にあった森林であったため、戦略上利用しやすいと考えられたからであろうと思われる。

こうして、生田川をはじめ、生田の森、布引の滝は古くからわが国を代表する景勝地として名を全国へと轟（とどろ）かせ、これまで全国的に有名な多くの古典文学作品の題材に使われてきている。

なお、生田川周辺には、この川の水力を利用した「水車」が江戸時代後半から大正時代頃まで回っていた。今では水車のことをしのぶものは皆無であるが、古い地図には、生田川周辺に水車があったことを示す水車のマークが描かれている。水車産業は江戸時代に六甲南麓の川で盛んに行われており、油絞り、酒造の米の精米、小麦ひきなどがなされていた。東灘区の住吉川の水車が全盛であったが、ここ生田川でも多くの水車が見られたのである。